



# 軽防協ニュース速報

## 2020年第3四半期(7月-9月)の伝染病発生状況

2020年12月配信

(International Collating Centreからの情報)

この記事は、2020年第3四半期(7月-9月)の各国の伝染病発生状況の要約したものである。また、米国についてはICC暫定(リアルタイム)のレポートでは報告されていなかった疾病発生状況の追加情報が寄せられていることにも留意されたい。この追加情報は、本レポートの表と本文の該当する箇所に\*印を付して示されている。ICC暫定(リアルタイム)のレポートは<http://jdata.co.za/iccvviewer/>のページ内にある。

このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1件の発生で複数症例を含むものがある。

### 繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1	EHV-3	レプトスピラ症
アルゼンチン	-	-	2	-
ベルギー	-	-	-	2
デンマーク	1	-	-	-
日本	-	1	-	-
アメリカ	-	-	*	-

### 馬伝染性子宮炎

#### デンマーク

1件の発生で3例の種雄馬にて不顕性感染が確認された。

### 馬ヘルペスウイルス1型(EHV-1)による流産

#### 日本

1例のワクチン未接種馬が流産した。

## 馬ヘルペスウイルス 3 型 (EHV-3)

### アルゼンチン

異なる施設で 2 件発生し、繁殖雌馬とサラブレッドを含む 29 頭が感染した。

### アメリカ

\* 当四半期末にケンタッキー州において、1 件の発生が追加報告された。

## レプトスピラ症による流産

### ベルギー

2 件の発生でそれぞれ 1 例が流産した。1 例は 10 ヶ月齢での流産であった。

## 呼吸器疾患

発生国	EHV-1	EHV-2	EHV-4	アデノウイルス	EI	腺疫
ベルギー	-	1	-	-	1	2
カナダ	-	-	-	-	-	1
フランス	1	-	20	-	1	9
ドイツ	-	-	-	-	4	-
アイルランド	-	-	-	1	-	-
日本	-	-	1	-	-	-
イタリア	-	-	-	-	1	-
オランダ	-	-	5	-	-	12
南アフリカ	1	-	-	-	-	-
スウェーデン	-	-	-	-	1	-
スイス	-	-	-	-	-	8
イギリス	1	-	-	-	-	-
アメリカ	-	*	1	-	6*	8*

## EHV-1 による呼吸器感染症

### フランス

1 件の発生で、1 例のサラブレッド 1 歳雌馬が発症した。

### 南アフリカ

ハウテン州にて 1 例発症した。

### イギリス

デボン州にて 1 例発症した。

## **EHV-2 による呼吸器感染症**

### **ベルギー**

西フランダース地方にて 2 ヶ月齢の子馬 1 例が発症した。

### **アメリカ**

\* 当四半期末に複数の州で、呼吸器疾患の臨床症状を伴う EHV-2 または EHV-5 の感染例が追加報告された。

## **EHV-4 による呼吸器感染症**

### **フランス**

20 件の発生が確認され、13 件は単独発症例、1 件は 3 例の発症、5 件は各 2 例の発症、1 件は発症数不明であった。臨床症状は鼻汁、発咳、パフォーマンスの低下であった。大半の症例では、鼻咽頭スワブの PCR 検査にて陽性が確認された。

### **日本**

1 件の発生で、8 例のワクチン未接種サラブレッドが発症した。

### **オランダ**

5 件の発生が確認され、4 件は単独発症例、1 件は 4~5 ヶ月齢の子馬 7 例での発症であった。臨床症状は鼻汁、発咳、発熱、リンパ節の腫脹であった。

### **アメリカ**

ジョージア州にて 1 例のワクチン接種済 3 歳馬が発症した。臨床症状は食欲不振、発熱であった。

## **アデノウイルス感染症**

### **アイルランド**

ティペラリー県にて 1 例の子馬における発症が報告された。組織の PCR 検査にて陽性が確認された。

## **馬インフルエンザ**

### **ベルギー**

エノー州にて 1 例発生した。臨床症状は発熱、鼻汁、発咳であった。

### **フランス**

ロワレ県にて 1 例、5 歳のハノーバー種牡馬が発症した。臨床症状は鼻汁、発熱、発咳、元気消失であった。

## ドイツ

4 件の発生が報告された。2 件は単独発症例であり、うち 1 件は最近スペインから輸入されたワクチン接種済の 7 歳雌馬であった。1 件は 2 例のシェトランドポニーが発症し、残る 1 件は 3 例が発症した。臨床症状は発熱、発咳であった。

## イタリア

1 件の発生が確認され、防疫対策が講じられた。

## スウェーデン

異なる施設で 3 件の単独発症例が報告された。すべてシェトランドポニーでの発症であった。全頭ともオランダから同一ロットで輸入された馬であった。臨床症状は発咳、発熱、粘液性の鼻汁であった。鼻腔スワブの PCR 検査にて陽性が確認された。

## アメリカ

6 件の発生が確認された。4 件は単独発症例であり、1 件では 3 例が発症、残る 1 件では 11 例が発症した。

\* 馬インフルエンザはアメリカで流行しており、当四半期末には他にも少なくとも 3 件の発生が追加報告された。発症はロバの 1 群 5 例を除き、すべて馬であった。

## \*ロドコッカス・エクイ

### アメリカ

\* 当四半期末にロドコッカス・エクイの発生が 6 例追加報告されており、いずれもケンタッキー州での発生であった。

## 腺疫

### ベルギー

2 件の単独発症例が確認された。うち 1 例は EHV-4、EHV-2、EHV-5 の混合感染であった。

## カナダ

スタンダードブレッドの 5 歳去勢馬 1 例が発症した。

## フランス

9 件の単独発症例が確認された。うち 1 件は 4 歳のサラブレッドであり、臨床症状は鼻汁、膿瘍、発熱、リンパ節の腫脹、嚥下障害であった。

## オランダ

12 件の発生が確認された。9 件は単独発症例であり、その他 3 件ではそれぞれ 2 例、3 例、15 例が発症した。陽性診断は主に鼻咽頭スワブの PCR で確認されたが、1 例では喉嚢洗浄液の PCR で確認された。

## スイス

8 件の発生が報告された。

## アメリカ

8 件の単独発症例が確認された。臨床症状は発熱、鼻汁、元気消失、リンパ節の腫脹であった。

\* 腺疫は風土病であり、当四半期末にさらに 10 の州で 33 件の多発性疾患としての発生が追加報告されている。

### 消化器疾患

発生国	ロタウイルス	サルモネラ症
フランス	19	-
スイス	-	2
アメリカ	*	*

## ロタウイルス性腸炎

### フランス

19 件の発生が確認された。15 件は単独発症例、3 件はそれぞれ 2 例、残る 1 件は 3 例が発症した。糞便または直腸スワブの PCR で陽性を確認した。

### アメリカ

\* 当四半期末に 17 例の発生が追加報告された。大部分はケンタッキー州における 60-90 日齢の子馬である。このうち、G3 遺伝子型が 4 例、G14 遺伝子型が 7 例、両遺伝子型陽性が 6 例であった。多くは 7 月に発症した。

### \* 増殖性腸症

### アメリカ

\* 当四半期末にローソニア・イントラセルラリスによる増殖性腸症がケンタッキー州の子馬で 1 例追加報告された。

## サルモネラ症

### スイス

2 件の発生が報告された。

### アメリカ

\* 当四半期末に、ケンタッキー州において 10 例の発生が追加報告された。2 例は C1 群、5 例は D1 群、残る 3 例は非定型群によるものであった。

## 神経疾患

発生国	EEE	EHV-1	EHV-4	狂犬病	WEE	WNV
カナダ	2	-	-	-	-	1
フランス	-	-	-	-	-	3
ドイツ	-	-	-	-	-	8
ハンガリー	-	-	-	-	-	1
イタリア	-	-	-	-	-	9
ポルトガル	-	-	-	-	-	1
スペイン	-	-	-	-	-	13
スウェーデン	-	1	-	-	-	-
スイス	-	3	1	-	-	-
アメリカ	97*	2*	-	1	1	24*

## 東部馬脳炎 (EEE)

### カナダ

2 件のワクチン未接種馬における単独発症例が報告された。臨床症状は運動失調、発熱であった。

### アメリカ

フロリダ、サウスカロライナ、バージニア、ウィスコンシン、ニューヨーク、ジョージアおよびミシガン州にて計 97 件の発生が確認された。

\* さらに 7 件の発生が当四半期末に追加で確認された。

## EHV-1 による神経疾患

### スウェーデン

最近ベルギーから輸入されたウォームブラッド種 1 例の発生が報告された。

## スイス

3件の発生が確認された。うち1例は16歳のフレンチサドルブレッドの去勢馬であった。臨床症状は沈鬱、発熱、尿失禁などであった。

## アメリカ

2件の単独発症例がカリフォルニア州で確認された。うち1例は17歳のサラブレッド去勢馬であった。臨床症状は発熱、運動失調、筋痙攣、横臥などであった。

\* さらに4件の単独発症例がレイジアナ、メリーランド、メインおよびペンシルベニア州で当四半期末に追加報告された。

## EHV-4による神経疾患

### スイス

1件の発生が報告されたが、EHV-4としては稀な症状を呈したこの症例がどのようにして確定診断がなされたのか、詳細は不明である。

## 狂犬病

### アメリカ

メリーランド州にてウォームブラッド種5歳去勢馬1例の発生が確認され、安楽死処置された。さらにワクチン接種済の2頭が感染馬と接触し、接触が判明した時点で補強接種を実施した。

## 西部馬脳炎 (WEE)

### アメリカ

ユタ州にて30歳のワクチン未接種馬1例で発生が確認された。

## ウエストナイルウイルス感染症 (WNV)

### カナダ

オンタリオ州にてワクチン未接種馬1例での発生が確認された。

## フランス

3件の単独発症例が確認された。

## ドイツ

8件の発生が確認された。

ウエストナイルウイルスのリファレンスラボラトリーによると、本年はこれまでのところ54羽の動物園の飼育鳥と野鳥、および16頭の馬におけるウエストナイルウイルスの感染が確認されている。さらに3頭の馬が現在検査中である。4頭の馬が感染により死亡している。

鳥や馬の感染例の多くは、既に感染が知られているドイツ東部の地域で確認されている。さらにチューリンゲン州では初めて、病気または死亡した動物園の飼育鳥と野鳥からもウエストナイルウイルスが検出された。ニーダーザクセン州のヘルムシュテット地区に新たに侵入したことが、神経症状を呈した馬で確認された。この地域の鳥類における感染例はまだ知られていない。

このように、本年は前年に比べてウイルスの流行が拡大する傾向を示している。今後数週間で、鳥や馬でさらに症例が増加することが予想されている。馬のオーナーは、獣医ワクチン常任委員会（StIKo Vet）が推奨するワクチン接種を行うべきである。

### **ハンガリー**

1 件の発生が確認された。

### **イタリア**

9 件の発生が確認された。

### **ポルトガル**

1 例の発生が確認され、防疫対策が講じられた。

### **スペイン**

13 件の発生が確認された。うち 3 件は単独発症例であった。

### **アメリカ**

24 件の発生が確認された。23 件は単独発症例であり、残る 1 件では 2 例が発症した。

\* さらに 3 件の発生が当四半期末に追加報告された。

## その他の疾患

発生国	AHS	アナプラズマ症	ボルナ病	EIA	レプトスピラ	ピロプラズマ	PHF	VS
カナダ	-	-	-	-	-	-	4	-
フィンランド	-	-	-	-	-	1	-	-
フランス	-	-	-	-	1	-	-	-
マレーシア	1	-	-	-	-	-	-	-
南アフリカ	-	-	-	-	-	3	-	-
スイス	-	1	2	-	-	1	-	-
アメリカ	-	-	-	3	-	-	6*	36*

### アフリカ馬疫 (AHS)

#### マレーシア

1 件の発生で同一施設の 5 例が発症した。確定診断は RT-PCR により実施され、防疫措置が講じられた。

### アナプラズマ症

#### スイス

1 件の発生が報告された。

### ボルナ病

#### スイス

2 件の発生が報告された。

### 馬伝染性貧血 (EIA)

#### アメリカ

クォーターホースにて 3 件の発生が確認された。2 件は単独発症例であり、1 件では 2 例が発症した。発生施設は検疫措置が実施された。

### レプトスピラ症

#### フランス

サドルホース (サドルブレッド) 種の 8 歳種雄馬 1 例での発生が確認された。眼房水の PCR 検査にて陽性が診断された。

### ピロプラズマ症

#### フィンランド

南スオミ州のリーヒマキにて 1 例の発生が確認された。フィンランドでは 1985 年以來の発生であった。

## **南アフリカ**

ピロプラズマ症は風土病として知られている。ハウテン州（18例）、ムプマランガ州（1例）および西ケープ州（1例）で散発的な発生が報告されている。

## **スイス**

1件の発生が報告された。

## **ポトマック熱（PHF）**

### **カナダ**

クォーターホースで4件の発生が確認され、いずれも単独発症例であった。臨床症状は下痢、食欲不振、脱水、頻脈、無気力などであった。

## **アメリカ**

6件の発生が確認された。5件は単独発症例であり、残る1件では10例で発症した。臨床症状は下痢、発熱、脱水、無気力などであった。

\* さらに11件の発生が当四半期末に追加報告され、発生の大部分はケンタッキー州であった。

## **水疱性口内炎（VS）**

### **アメリカ**

アラスカ、アーカンソー、カンザス、ミズーリ、ネブラスカおよびオクラホマ州で計36件の発生が確認された。

\* 水疱性口内炎は引き続き流行が拡大しており、主に馬および一部牛で167件の発生が当四半期末に追加報告された。感染が認められた全ての施設で、インディアナ血清型のウイルスが関与していた。